

林業ミニ情報 No.152

平成31年3月

- 1 神栖市「第5回白砂青松再生プロジェクト」が開催される1
(銚田林業指導所 丹羽)
- 2 茨城みらいの苗木研究会が林野庁長官賞を受賞2
(水戸林業指導所 市村)

H30.普及ミニ情報(平成 31 年 3 月)

(鉾田林業指導所 丹羽 忠邦)

<p>タイトル</p>	<p>神栖市「第 5 回白砂青松再生プロジェクト」が開催される</p>
<p>年月日</p>	<p>平成 31 年 3 月 3 日 (日)</p>
<p>場所</p>	<p>神栖市波崎地内「矢田部海岸」</p>
<p>内容</p>	<p>平成 31 年 3 月 3 日 (日), 神栖市波崎の矢田部海岸において「第 5 回白砂青松再生プロジェクト」が開催されました。</p> <p>この取り組みは, 神栖市美化運動推進連絡協議会と市が締結した「茨城県神栖市海岸防災林等の整備等に関する協定」に基づき, 海岸の植栽・整備を協働で進めていく活動であり, 平成 26 年度から毎年参加者を募集して植樹活動を行っているもので, 今年度は神栖市矢田部海岸において実施されました。</p> <p>当日はあいにくの雨天にもかかわらず, 市長をはじめとする市関係者, 地元の小中学生など一般参加者を合わせ約 500 名が参加し, あらかじめ静砂垣が設置された約 2,500 m²の敷地内に, クロマツの苗木約 2,500 本を, スコップを使って 1 本ずつ丁寧に植樹しました。</p> <p>参加者の中には, 昨年に引き続き参加した児童もおり, 「去年より上手に植えられた, 将来木が大きくなるのが楽しみ」などの感想を話していました。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>集合写真</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>植樹活動の様子</p> </div> </div>
<p>普及成果</p>	<p>海岸部の生活環境を守っている海岸防災林は, 現在, 松くい虫被害等により衰退してきております。当指導所では, 海岸防災林の機能の再生を図る取組に対して, 引き続き支援してまいります。</p>

H30.普及ミニ情報(平成31年3月)

(水戸林業指導所 市村 よし子)

タイトル	茨城みらいの苗木研究会が林野庁長官賞を受賞
年月日	平成31年2月27日(水), 28日(木)
場所	東京都「国立オリンピック記念青少年総合センター」
内容	<p>全国林業研究グループ連絡協議会の主催により開催された平成30年度全国林業グループコンクールにおいて、全国6ブロックのうち、関東・山梨ブロックを代表して発表した茨城みらいの苗木研究会が、林野庁長官賞を受賞しました。</p> <p>本コンクールは、林業技術の向上・林業経営の発展のために、自主的な集団活動を行って地域の振興・活性化を図っている林業グループを全国的に取り上げ、その活動・研究を発表・討議することによって、林業グループ相互の発展・資質の向上を図るものです。</p> <p>同研究会は、かねてより茨城県林業種苗協同組合青年部として活動している山林用苗木生産農家の後継者5名で結成され、主な活動として、コンテナ苗の生産技術向上及び普及、新たな樹種の生産及び普及、苗木生産を通じた社会貢献などに取り組んでいます。</p> <p>今回の発表では、従来の苗畑での生産に比べ労働を軽減できる可能性があるコンテナ苗について、生産者同士の情報共有と技術向上及び、安定した生産・供給体制づくりを目的とした合同勉強会等を随時行い、肥培方法など新しい育苗技術の開発を行っていることや、新たな挑戦としてウルシ苗の生産を始めたことなどを紹介しました。</p> <p>念入りの準備と練習を重ねた分かりやすい発表に加えて、審査員から出された「今後の生産を5人でやっていくのか」「培った技術を他の生産希望者へ教えられるか」などの質問に対して的確に回答できたことが高い評価につながりました。</p>



発表の様子



受賞後の記念撮影

普及成果

同研究会の精力的な取組は、他の林業研究グループ等の活性化にも寄与するものと考えています。当指導所では、引き続き同研究会の活動を支援するとともに、後継者の育成にも努めていきます。